



イン川からの展望、インスブルック市 2005年10月31日

植物は建築のアクセサリーか

建築博物教室 第17回 公開ギャラリーセミナー

生物共生のアーキテクチャ

多様な生き物と共生する建築を考える

大場秀章

東京大学名誉教授／東京大学総合研究博物館 特招研究員
(植物分類学、ヒマラヤ高山植物、植物多様性文化研究)

日時：2018年12月8日(土) 13:30～15:00

会場：東京大学総合研究博物館小石川分館2階「空間標本」展示室

入場：無料(事前申込不要)

生物共生のアーキテクチャ



左上：東京清澄庭園、涼亭 2002年4月16日／右上：ウランバートル近郊の草原でみたゲル、モンゴル 2005年8月7日／右下：伊射奈岐神社の拝殿、天理市 2008年10月18日／下段左：エディンバラ城、英国エディンバラ 2002年5月25日／下段右：ヴェネチア運河沿の建物 2008年9月10日

人間の居住区域は、人間以外の動物、植物、菌類などが生存のために利用する区域でもあり人間の占有物ではないはずである。

人間を含めたほぼすべての生物が唯一使用できるエネルギーATPは、太陽の光エネルギーから植物(広義)のみが生産できる。陸上での植物は主に温度と水の量によって、資源に恵まれ方から順に、森林、草原、荒原など、異なるかたちの生え方をする。森林は樹木だけでなく草なども生え多様性が高く、また多様な動物も生息し、地球上で最も多様性の高い地域である。人間が高密度で生活する空間もそれに重なる。

地球の一員としての人間の生き方として、建築も多様な生物との共生を妨げない、という視点が求められる。確かに、最近の建築物には周囲や壁面に植物を植栽した建物も少なくない。しかし、私には植物を単なるアクセサリとして用いてるに過ぎないと思える。都市を中心に植物などの高い多様性を維持し共生する建築を考えてみたい。

東京大学総合研究博物館小石川分館

〒112-0001 東京都文京区白山3-7-1
Tel. 03-5777-8600(ハローダイヤル)

開館時間：10:00-16:30 (入館 16:00 まで)
入館料：無料
休館日：月・火・水曜日
(いずれも祝日の場合は開館)、年末年始、その他博物館が定める日

アクセス：地下鉄丸ノ内線茗荷谷駅より徒歩8分
<http://www.um.u-tokyo.ac.jp/architectonica/index.jp.html>



大場秀章 (おおば ひであき)

東京大学名誉教授／
東京大学総合研究博物館
特招研究員

理学博士

専門は植物学、主として植物分類学、ヒマラヤ高山植物、植物多様性文化研究

著書(一部)

- 大場秀章. 1996年. 植物学と植物画. 八坂書房.
- 1997年. バラの誕生—技術と文化の高貴なる結合. 中央公論社 (中公新書).
- 1997年. 江戸の植物学. 東京大学出版会.
- 1999年. ヒマラヤを越えた花々. 岩波書店.
- 2004年. サラダ野菜の植物史. 新潮社 (新潮選書).
- 2005年. 東京大学本郷キャンパス案内. 東京大学出版会.
- 2006年. 大場秀章著作集、I、II. 八坂書房.
- 2007年. シーボルト日本植物誌. 筑摩書房 (ちくま学芸文庫).
- 2009年. 植物分類表. アポック社.
- 2017年. 名画の中の植物. 八坂書房.

変わった仕事として、

第11回ヴェネチア・ビエンナーレ建築展 日本館展示(2008年)コンペに採択され、東北大学の五十嵐太郎教授をコミッショナーに、建築家の石上純也氏と組んで、作品 extreme nature-small pavilions をヴェネチア・ビエンナーレ会場に建てた。

建築博物館教室とは？

「アーキテクチャ」をテーマにさまざまな分野の研究者が講演を行い、関連した標本を「アーキテクトニカ・コレクション」として展示していくシリーズイベントです。

建築ミュージアム / アーキテクトニカ

KOISHIKAWA Annex.

UMUT

東京大学総合研究博物館小石川分館